

## 形の限界を探ってみる

### New Style Illustration

山内瞬葉 (shunyo Yamauchi)

きっかけは1989年頃面白いパターンに出会った。そのころヘタウマデザインの全盛期、新鮮なイラストレーションが日本中に氾濫していた。その中でひとつの試みである。

絵を考えてみよう。まずシルエット、次にグラデーションなどのシチュエーション、次に探していくとタッチが見つかる。筆のタッチや鉛筆のカサツキなどである、それが全体のマチエールを創っていることもある。印刷物では網点がある。現在は500点以上と写真の粒子まで届こうとしている。網点のようなものがないコンピュータグラフィックにもピクセルというものにたどり着く。グラフィックデザインの表現テクニックで、網点を目立たせたり、また10線位で網点そのものの面白さを出し、表現する絵は離れて見ないと認識できないようにする方法がある。これは強い表現力を持ち、一種のたまし絵とも言える。写真は全階調で表されていて、ミクロの領域まで掘り下げると粒子にたどり着く。この粒子も増感の手法で大きな粒子を表すこともある。写真のトリミングを思い切って小さいエリアを選択すれば、おのずと粒子は現われて来る。規則的な形の網点のことをもとに考えてきたが不規則な砂目も点で考えれば同じことが言える。そうして考えていくと絵は点で表現され、シルエットは点の集合と考える。

全体の持つ表現はアートディレクションそのものであり、このパタ

ーンの形は何ら意味を持たない。要するに網点の一つと考えることができる。それが何げないオリジナリティーになるのではないだろうか。こうしてこのイラストレーションを作っている間、周囲では大きな展開が見られた。コンピュータの進化により網点に変わるマチエールの出現、コンピュータ画面で「ピクセル」と呼ばれるモザイク模様の確認、従来では大変だったパターン処理、複雑なイラストレーションの繰り返しによる複雑パターン等、高密度の模様が簡単に作れるようになった。しかし高密度とは言っても単純なものである。高密度のマチエールとは絵と絵の具が作るものや、パターン化されない自然物の素材感である。デジタルとアナログのディテールの限界の差である。このパターンはよく「CGのパーツか」と聞かれたことがあるのだが、そうではなく、写真の紙焼パーツを利用している。CGの高解像度出力を持ってしてもこの1個のパターンは表現しにくい。それは微妙な曲線と印刷時点では再現されなくても必要な、細い線で作られマチエールを持ち合わせたパターンである。

イラストレーションの大きさとパーツの大きさが左右する。この形の意味をなくすためには、多くの点数を作ることもあった。ほんの少しの発明のような喜びと、どんなに作っても満足しえない、自分だけが使うパターンの重荷を感じながら、作品をここにまとめてみた。



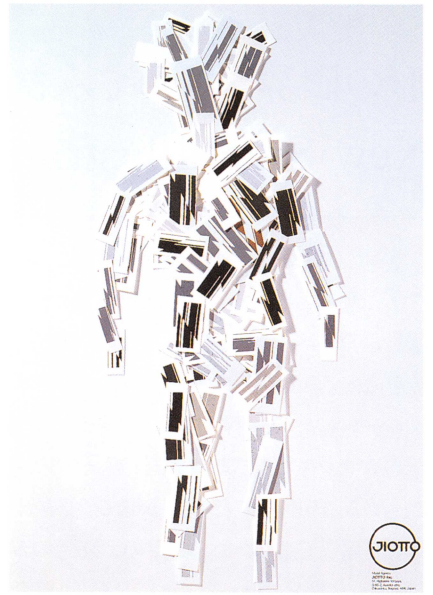
写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



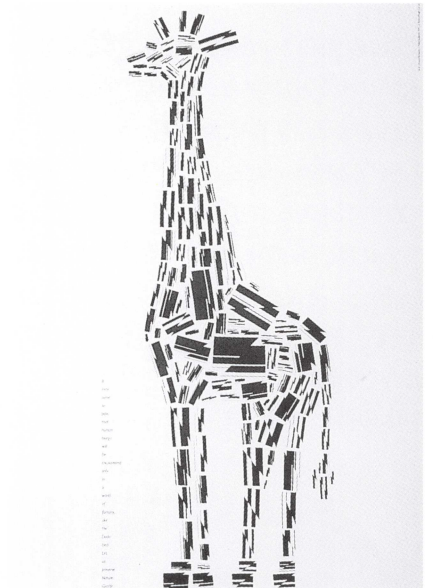
写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



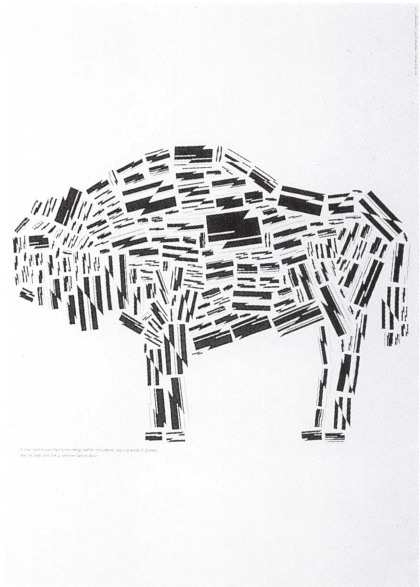
コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



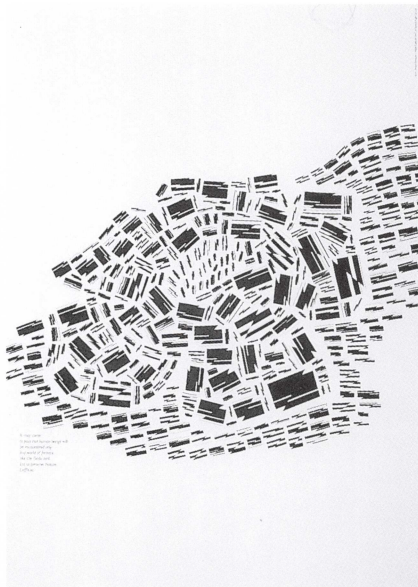
コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



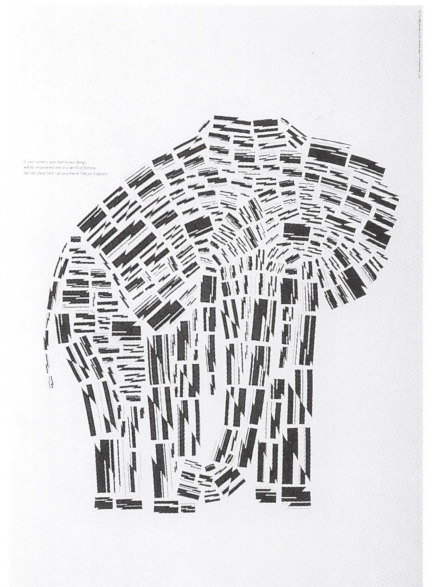
コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



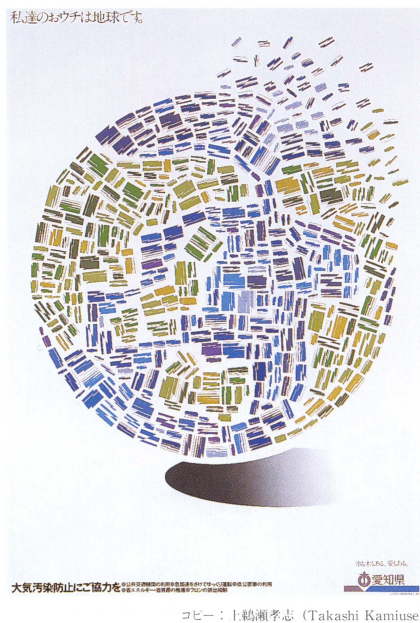
コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



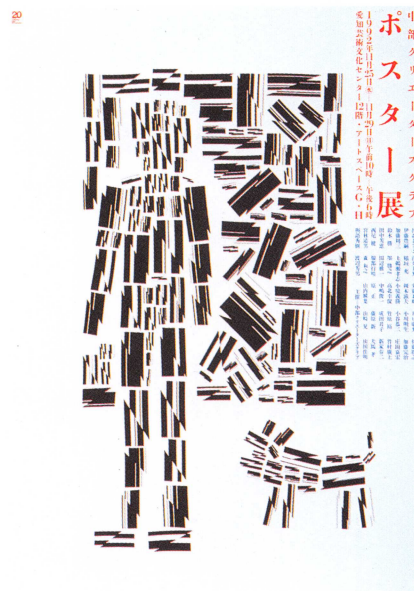
コピー：佐野真紀 (Maki Sano)



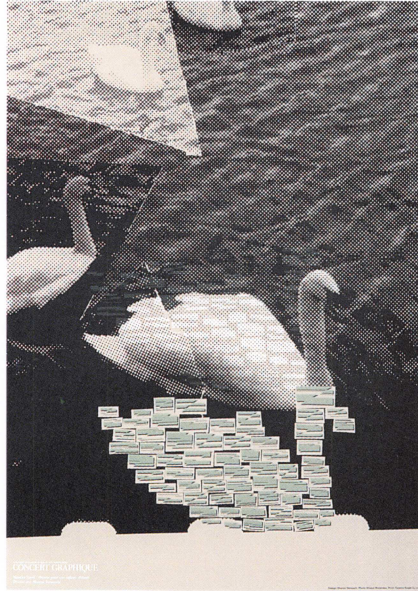
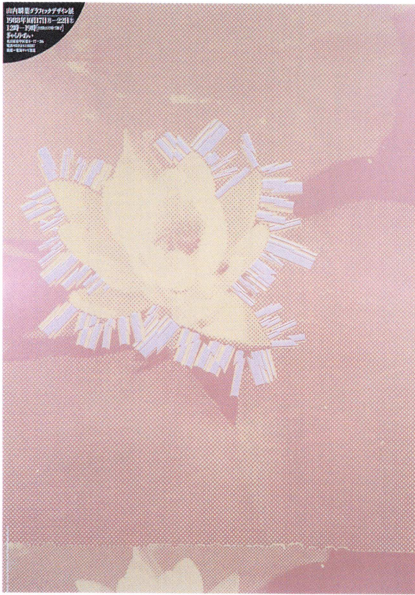
写真：岩井勝 (Masaru Iwai) / コピー：榎準子 (Jyunko Sakaki)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)

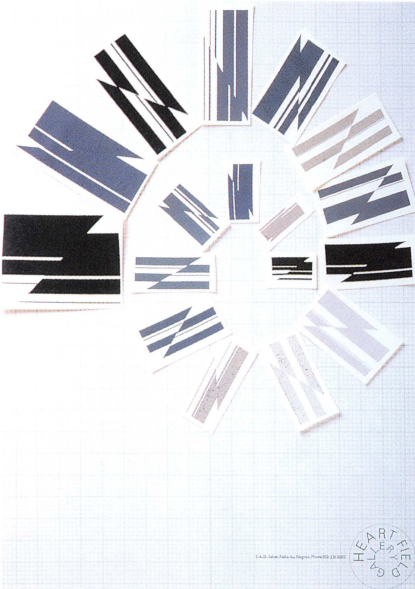


Shunyo Yamauchi



写真：渡辺修一 (shuichi Watanabe)

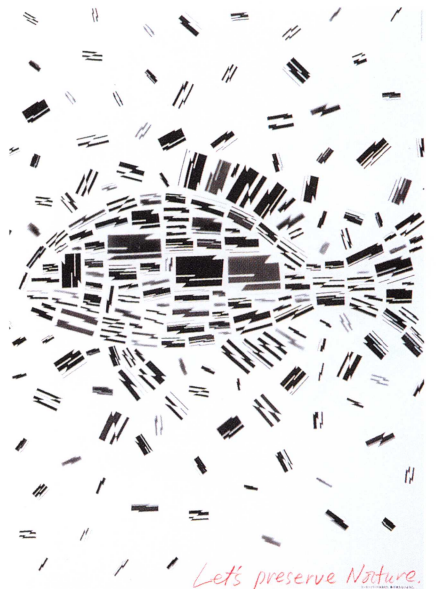
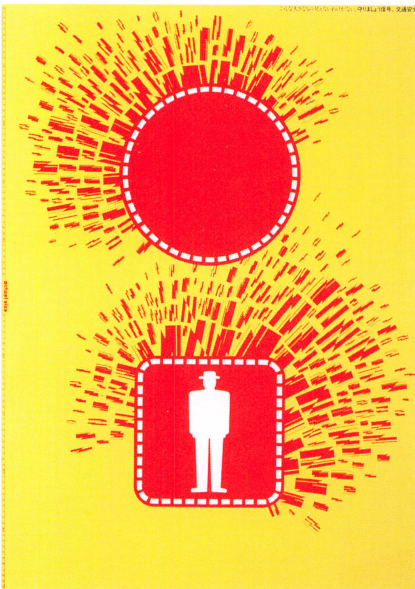
写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)

The Border is not Bold. «Peace»

The Border is not Bold. «Peace»

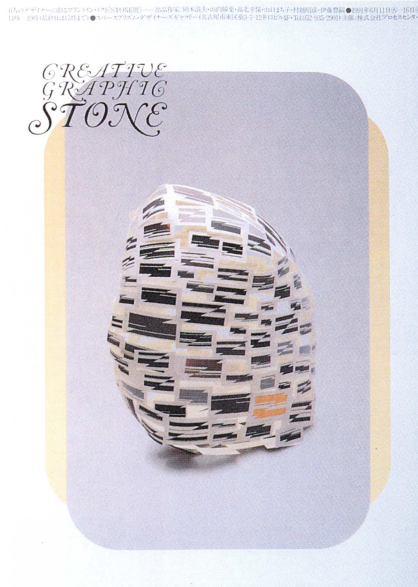


Let's preserve Nature.

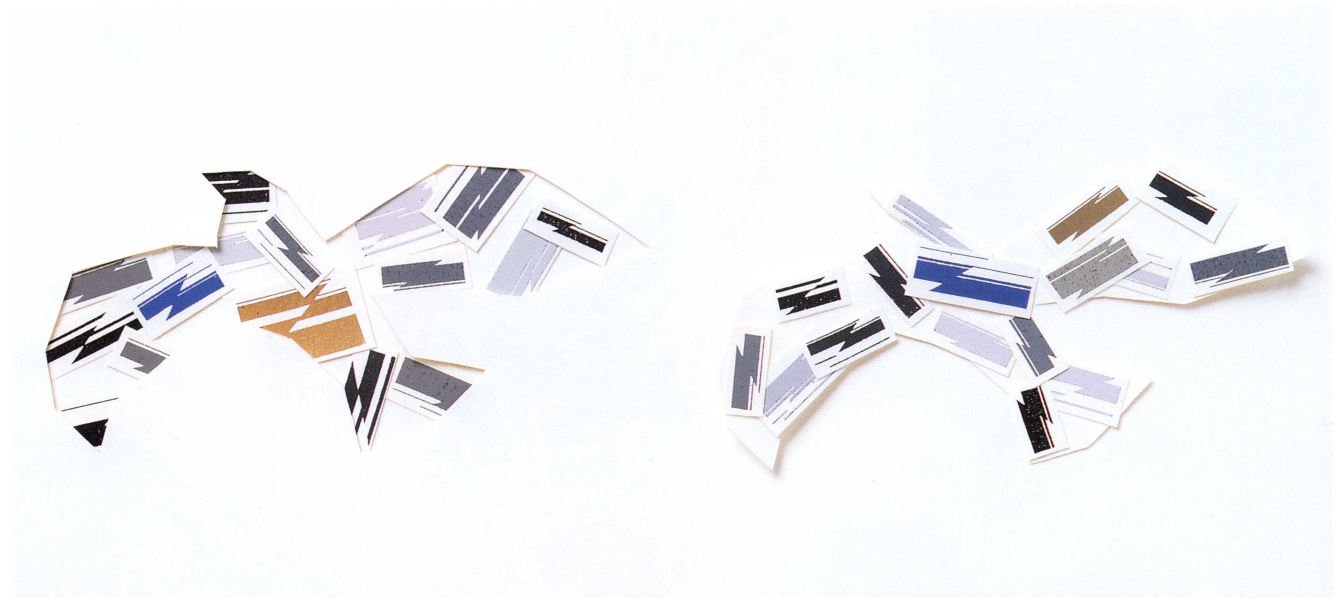
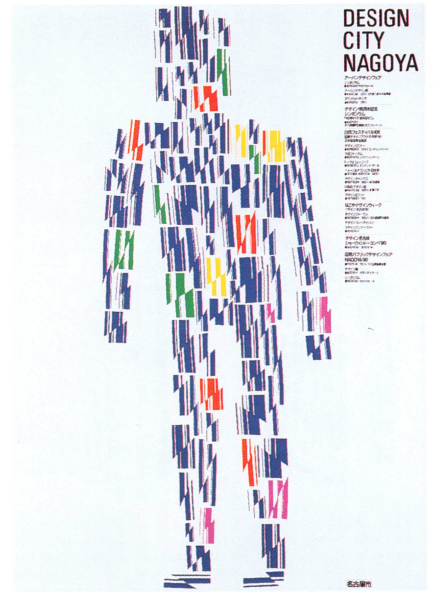
Let's preserve Nature.



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)



写真：岩井勝 (Masaru Iwai)

デザインが面白くなる！こと、つぎつぎ扉が開きます。

遊園地であそぶように、美術館を訪ねるように、デザインをもっと面白く！国際デザインセンターでも、デザインがぐっと身近になるデザインニュースから、ファッションショーや展覧会、シンポジウム、が開催されるデザインホールとデザインギャラリー、情報満載のデザインライブラリー、新感覚のショップモールまで、デザインのアルコウスが盛り盛り、国際デザインセンター、いよいよ名古屋に誕生します。

国際デザインセンターは、名古屋市の中心部、栄に11月5日オープン。国際デザインセンターは、名古屋市の中心部、栄に11月5日オープン。国際デザインセンターは、名古屋市の中心部、栄に11月5日オープン。

IdcN 国際デザインセンター

INTERNATIONAL DESIGN CENTER NAGOYA  
15 NOVEMBER, 1996  
OPEN

あたらしい暮らしの扉です。

国際デザインセンター、名古屋の中心「栄」に11月5日オープン。

IdcN 国際デザインセンター

コピー：樺準子 (Jyunko Sakaki)

1992年6月1日

June 1992

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---

写真：岩井勝 (Masaru Iwai)

K Hosokawa a Clavibalo Recital

1993年3月6日 午後7時開演  
アコギートホール  
大岡村 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1

細川 和子

細川 和子 Clavibalo Recital

1993年3月6日 午後7時開演  
アコギートホール  
大岡村 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1

7

CENTRAL

写真：岩井勝 (Masaru Iwai)